

## **[成果情報名] ふじさんアジサイ‘あかね’の飾花利用における倒伏軽減のための栽植法**

**[要約]** ふじさんアジサイ‘あかね’（山梨24-1）の飾花利用において、条間200cm、株間25cmで密植すると、単位面積あたりの花茎数が多くなり、また、花穂が小型化することから花茎角度が維持され、倒伏が軽減される。

**[担当]** 山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・花き応用育種科・穴澤拓未

**[分類]** 技術・普及

---

### **[背景・ねらい]**

県育成品種ふじさんアジサイ‘あかね’（山梨24-1）の飾花利用では、従来の露地切り花栽培と同様に栽植した場合、花茎が柔らかいため、開花した時に花穂の重さにより倒伏しやすく、花穂が地面に着くと観賞価値が下がる。そこで、飾花利用における倒伏軽減を目的とした栽植法を開発する。

### **[成果の内容・特徴]**

1. 条間200cm、株間25cmで密植すると、単位面積あたりの花茎数が多くなり、花茎角度が維持され、倒伏が軽減される（図1～3、表1）。
2. 株間25cmの場合、定植2年目および3年目では、株間50cmならびに100cmと比較して全長は低く、花穂長は小さくなることから、花茎角度が維持され、倒伏が軽減される（表1）。
3. 定植3年目においても密植による倒伏軽減効果は維持される（図1、表1）。
4. 密植に起因する花穂の褐変や株落ち等の障害は認められない（図1）。

### **[成果の活用上の留意点]**

1. 本試験は萌芽前に地際部ですべての花茎を剪定した。
2. 管理や作業空間を確保するため、条間は200cm程度離すのが望ましい。
3. 施肥は、2019年および2020年についてCDU化成肥料を成分量 $N-P_2O_5-K_2O=10-10-10kg/10a$ （1m幅の畝施用）、2021年は無施肥の条件で行った。
4. 樹高等は栽植した場所（標高）、樹齢、施肥管理により変動する。
5. 本試験は総合農業技術センター高冷地野菜・花き振興センターほ場（北杜市明野町・標高747m）において実施した。

### **[期待される効果]**

1. 飾花に適した栽植法が明らかとなり、ふじさんアジサイの観賞価値が向上する。
2. ふじさんアジサイ県育成品種の利用拡大が図られる。

[具体的データ]



図1 密植による倒伏軽減効果の様子

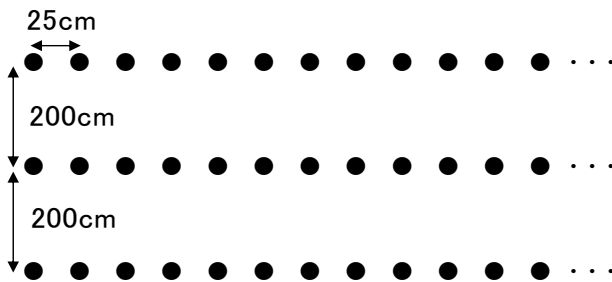


図2 条間 200cm、株間 25cm の栽植図

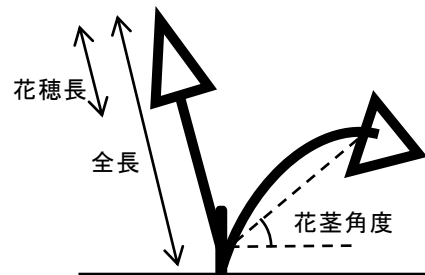


図3 ふじさんアジサイの形質測定部位

表1 ‘あかね’の栽植密度が草姿に及ぼす影響

試験年次 (樹齢)	株間 <sup>z</sup> (cm)	耐倒伏性 <sup>y</sup>	花茎数 (本/m <sup>2</sup> )	全長 (cm)	花穂長 (cm)
2019年 (定植1年生)	25	<b>3</b>	12	75	23
	50	<b>1</b>	7	73	24
	100(対照)	<b>1</b>	3	77	26
2020年 (定植2年生)	25	<b>4</b>	18	102	24
	50	<b>3</b>	10	123	29
	100(対照)	<b>3</b>	5	136	34
2021年 (定植3年生)	25	<b>3</b>	16	94	15
	50	<b>2</b>	14	108	17
	100(対照)	<b>2</b>	10	118	21

<sup>z</sup> 条間は全ての試験区において200cmで栽植

<sup>y</sup> 開花終期の花茎角度より耐倒伏性を5段階で評価 (数値が高いほど倒伏しにくいことを示す)  
 1:花茎角度0~10°、2:10~30°、3:30~50°、4:50~70°、5:70~90°

[その他]

研究課題名：ピラミッドアジサイの新品種育成  
 予算区分：県単（重点化）  
 研究期間：2017～2021年度  
 研究担当者：穴澤拓未、雨宮圭一、赤池一彦